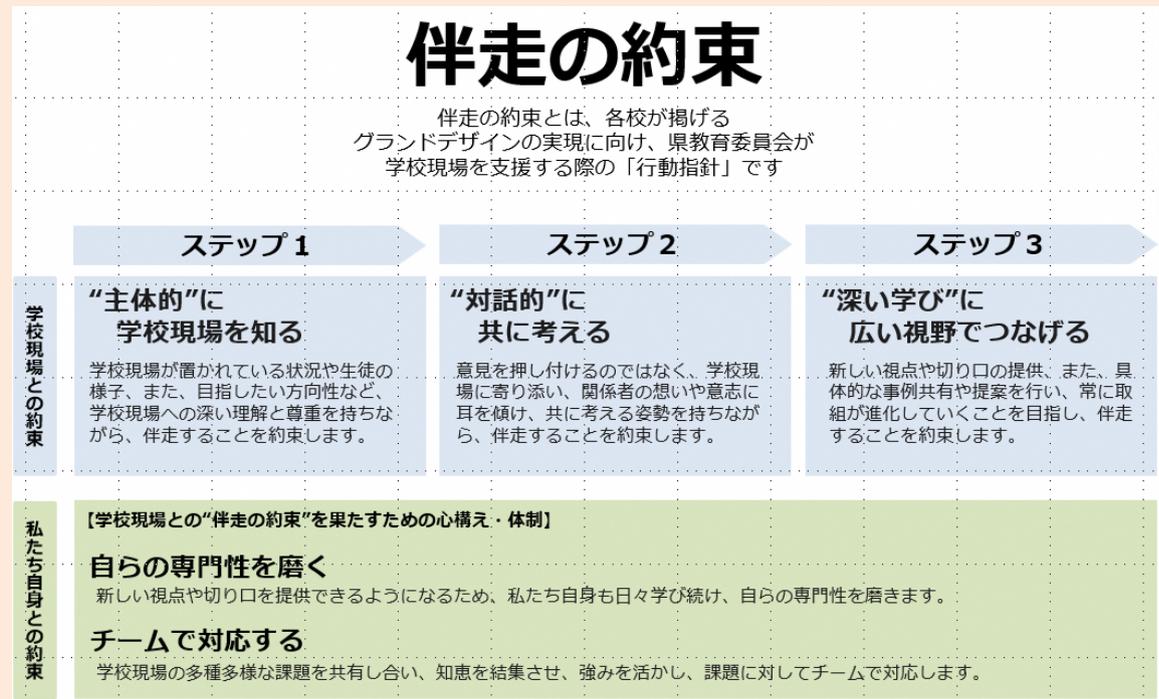
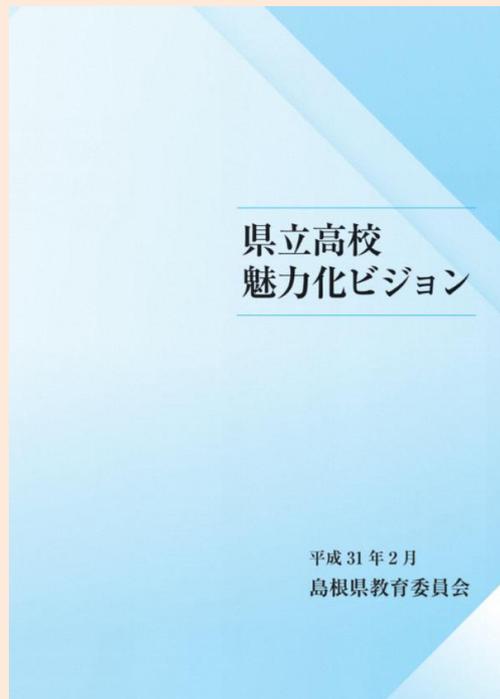


学校の運営支援のために果たすべき役割について

～地域・高校現場への伴走支援体制の構築～



「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議
 令和 5 年 6 月 2 6 日（月）
 島根県教育庁 教育指導課 地域教育推進室

「県立高校魅力化ビジョン」

県立高校魅力化ビジョンの策定
(平成31年2月)

「地域社会との協働による
魅力ある高校づくり」

2020年代の教育の基本的な方向
性と直近5年間(2019-2023)
の具体的な取組を示したもの

※島根県の県立高校の状況+国の教育改革の
動向を踏まえて策定

県立高校 魅力化ビジョン

目次	
策定に当たって	1
策定の方針	2
第1章 「生きる力」を育む魅力ある高校と地域 づくりの推進	
一 地域に根ざり、大きな教育効果を全県に広げ、 全国に誇れる島根らしい魅力ある高校づくりを進める	
1 地域協働スクールの実現	4
2 地域資源を活用した特色ある教育課程の構築	7
3 多様な学びの保障	8
4 「学びの成果」の捉え方・示し方の開発と、学校評価の改善	9
5 「しまね留学」の推進	11
第2章 生徒自らが選び、学び、夢を叶える高校 づくりの推進	
一 主体的な学習を促し、個性・志向性に応じた多様な学びを 一人一人が追求できる、魅力ある高校づくりを進める	
1 「求める生徒像」の確立と入学者選抜方法の改善	13
2 特色ある学科・コースの設置による、主体的な学びの推進	15
3 生徒の主体性が発揮される高校づくりの推進	22
4 学びのセーフティネットの構築	23
5 インクルーシブ教育システムの推進	23
6 ICTを活用した授業改善の推進	25
第3章 将来を見通した教育環境の整備	
一 将来を見通した各高校・指導の在り方の実現に向けた環境整備を推進する	
1 地域別の高校の在り方	27
2 教員の働き方改革、教員の確保と育成	33
参考資料	35

R 5 年度の県立高校魅力化ビジョン推進体制

県立高校魅力化ビジョン推進本部会議

【構成員】

教育監、特命官、参事、指導課長、企画課長、所長、地域室長、改革室長

【役割】

- ① 関係所属の動きを情報共有
- ② 管理職伴走メンバー（校長OB指導主事）から学校訪問の状況共有
- ③ 各魅力化推進チームの取組状況のチェック
- ④ 出てきた課題に対する機動力を活かした対応（方針決定・指示）

報告

将来を見据えた議論が
必要だと考えられるテーマWG

【テーマ】

遠隔教育(CORE事業)の今後など

【メンバー】

教育指導課（教育S、高校S、地域室）
学校企画課（改革室、企画人事S）
教育センター（教育企画部）
※ 必要に応じて教育施設課
※ オブザーバーとして特命官 ほか

拡大会議

+ 副教育長 + 総務課長 + 社会教育課長 + 特別支援教育課長

情報共有

授業改善・学力育成チーム

共通 ビジョン (R6年度)	教科と探究を往還させ、主体的・対話的で深い学びを各教科で実践し、育てたい生徒像の育成に資するカリキュラム&授業を展開
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各担当者間の情報共有 ・ 学校訪問（学校伴走）の進め方の検討・共有 ・ ビジョン実現に向け不足している要素の発見
構成 (要素)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校S 授業改善/カリマネ/ICT活用 ・ 地域室 探究学習推進 ・ 教育センター 授業改善研修/高校訪問

地域協働チーム

共通 ビジョン (R6年度)	学校も地域も誰もがコンソーシアムがあったと実感し、地域とともにグラデザ実現に向けたPDCAを回している状態
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各担当者間の情報共有 ・ グランドデザインPDCA研修の情報共有 ・ ビジョン実現に向け不足している要素の発見
構成 (要素)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域室 高校魅力化コンソ/PDCA研修 魅力化評価/コーディネーター ○改革室 普通科改革 ○社会教育課 社会教育士養成/地域づくり【NEW】

令和6年度末

(新学習指導要領による新大学入試の年 = 教育魅力化ビジョン・学力育成プラン・島根創生計画終了年)

- ・ **各学校のグランドデザイン（スクール・ポリシー）の実現**
- ・ **学力育成プランの目標達成**

① 主体性・探究性・協働性・社会性 (※高校魅力化評価システム)

- ・ 地域の課題の解決方法について考える生徒の割合 [R2] 54.9% → [R6] 70.0%
- ・ 活動、学習内容について生徒同士で話し合っていると思う生徒の割合 [R2] 86.7% → [R6] 95.0%
- ・ 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った生徒の割合 [R2] 59.7% → [R6] 70.0%

② 自立的な学習行動・学習時間 (※授業外の平均学習時間等)

- ・ 家や寮で誰かに言われなくても自分から勉強する生徒の割合 [R2] 75.7% → [R6] 80.0%
- ・ 生徒が学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日あたり勉強する平均時間 [R2] - → [R6] 2h15m

- ・ **意志ある進路希望の実現** (※県内大学等への進路希望を実現できる生徒数等)

○年次スケジュール

令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
省令等改正	高1新学習指導要領開始	高2新学習指導要領	高3新学習指導要領 新大学入試 (主体性等)
グランドデザインに基づく ・新カリキュラム設計 ・コンソーシアムの設置・再構築 ・県の体制・事業・業務見直し等	・高1新カリキュラム ・一人一台端末開始 (高1)	・高2新カリキュラム -探究 (大学連携/教科連携等)	・高3新カリキュラム -新入試の実施

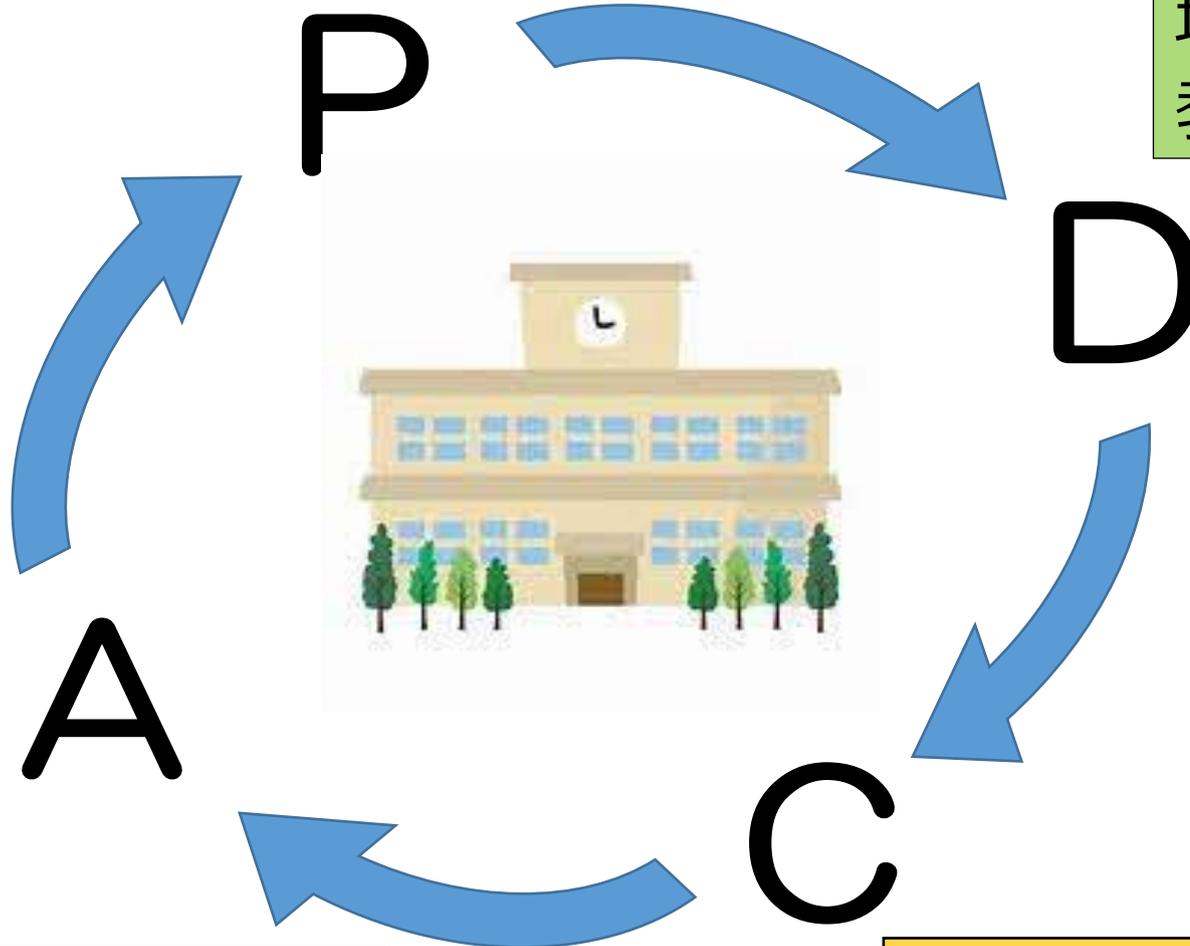
【県教委が果たすべき役割】

- ・ 県教委の現場への伴走支援 (教職員・学校の課題解決・コンソーシアムのPDCAサイクル支援等)
- ・ 高校を越えての共学共創 (データも活用した学びあい・知見の共有活用等)
- ・ オンラインプラットフォーム等での探究学習・キャリア教育支援 (地域には資源の獲得支援等) 等

グランドデザイン

※グランドデザイン実現に係る評価指標を設定

- ・ A指標：進路実績や資格等に関すること
- ・ B指標：学びに向かう姿勢・意欲に関すること



地域と協働した
教育課程

次年度の学校経営
計画への反映

学校評価
高校魅力化アンケート等

(参考) 高校魅力化評価システム

学校のPDCAサイクルに、評価の仕組みを組み込む



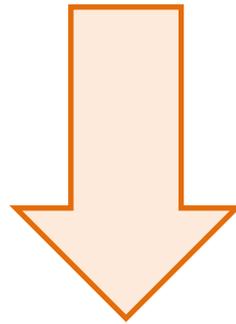
生徒と学校・地域の**現状**（強み・弱み）が見える



生徒と学校・地域の**変化**が見える



生徒の変化と学校・地域の活動の**繋がり**が見える



伸ばしたい、改善したい、**次の一歩**



目標の設定や成果の把握の手がかり

「意志」にもとづく判断を**「支える」**のが評価システム

(参考) 高校魅力化評価システム活用研修

令和4年度島根県 高校魅力化アンケート活用研修

令和4年8月5日(金)

【重要】羅針盤の確認

☑ 評価結果の読み取りには、**こうありたい、という「羅針盤」が重要です**

➡ 評価結果を見る際に事前にお願ひしたこと (事前ワーク)

グランドデザインで育成を目指す生徒像^④

事前ワーク1・2^④

事前ワーク1) 自校のグランドデザインで育成を目指す生徒像を記載^④してください。^④
Ex) ○○力のある生徒、○○ができる生徒^④

事前ワーク2)^④
生徒向けアンケート調査票をみて、「目指す生徒像」と関連した質問^④項目にマーカーでチェックをしておいてください。(質問4~10 から)^④

目指す生徒像の実現に向けた教育実践^④

事前ワーク1・2^④

事前ワーク1) 目指す生徒像の実現に向けて、日頃意識している教育^④実践を記載してください。^④
Ex) ○○の機会を意識した授業、○○な学校風土づくり^④

事前ワーク2)^④
生徒向けアンケート調査票をみて、「意識している実践」と関連した質問^④項目にマーカーでチェックをしておいてください。(質問2~3から)^④

「育てたい生徒像」等に基づいて、生徒の資質・能力の育ちを確認

③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)	全体	全校		1 年生 (2022入学生)		2 年生 (2021入学生)			
		割合(%)	差(p)	割合(%)	差(p)	割合(%)	差(p)		
社会性に関する自己認識	65.9%	-2.74	2.06	61.5%	-3.45	4.07	71.2%	6.20	25.4%
【地域貢献意識】	63.6%	-3.20	3.54	58.0%	-4.50	4.99	70.9%	8.40	26.6%
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	50.0%	-4.20	5.96	43.3%	-3.89	9.31	59.0%	11.73	33.6%
66 地域をよりよくなるため、地域の課題に関わりたい	67.8%	-3.91	3.66	63.3%	-5.42	5.69	75.4%	6.62	21.6%
68 将来、自分の住んでいる地域に立派な施設を建てたい	73.1%	-1.50	1.00	67.3%	-4.19	-0.03	78.4%	6.83	24.6%
【社会参画意識】	68.2%	-2.63	1.80	63.8%	-3.58	2.44	73.1%	5.77	26.1%
67 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	49.5%	-6.12	1.76	41.3%	-7.97	0.36	52.2%	2.93	28.4%
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	71.9%	-1.03	0.68	67.3%	-1.03	-1.42	80.6%	13.24	31.3%
85 18歳選挙権を教わったら、選挙に行きたい	83.2%	-0.76	2.98	82.7%	-2.75	8.36	86.6%	1.15	18.7%

• 「地域貢献意識」「社会参画意識」とともに、学年を経ると伸び

- 特に、「将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい」「地域や社会での問題やできごとに関心がある」が、1年生→2年生の間で大きく伸長
- さらに、「私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない」が、2年生→3年生の間で大きく伸長

→こうした伸びを支えた教育実践として何が考えられそうでしょうか？

• 一方で、今年度入学生の数値は、昨年入学生 (現2年生) と比べてやや低い

→現状を踏まえて、今後の教育実践としてどういった工夫が考えられそうでしょうか？

R5年度 グランドデザインの実現に向けた研修体系

グランドデザイン

新教育課程デザイン研修（高校S）

目的	新学習指導要領に基づく学習指導の実現に向けた校内体制を構築するため、新教育課程デザインの中核を担う教員の教育的見識と指導力の充実を図る。
対象	主幹教諭＋教務主任（主幹未配置校は教頭＋教務主任）
概要（予定）	5月【オンライン】 主幹教諭の業務確認＋カリキュラム・マネジメント計画作成 ほか 8月【集合型】 新学習指導要領等に関する課題共有・意見交換 ほか
伴走支援	各教科指導主事（高校S＋地域室ほか）の学校訪問の際などに伴走支援を行う

グランドデザインPDCA研修（地域室）

～地域との協働体制(コンソ)を生かしたテーマの推進～

目的	グランドデザインにもとづく魅力化のPDCAサイクルをコンソーシアム等の協働体制を活かして構築するプロセスを学び合うことで、知見を共有し、各校の取組を推進する。
対象	高校の地域協働体制を活かしたPDCA構築の中核メンバー [管理職及び主幹教諭、市町村担当者、コンソ運営マネージャー、コーディネーター。コンソ関係者等が3人チームで参加]
概要（予定）	5月【オンライン】 グランドデザイン実現に向けた重点取組の設定 10月【集合型(1日)】 他地域の事例発表や他校との協議 2月【オンライン】 重点取組に向けた取組・課題等の事例発表
伴走支援	各コンソの重点取組テーマに関するミニ研修（任意参加）を3回の研修の間に設定しながら伴走支援を行う

探究学習担当者研修（地域室）

- 探究学習の充実にに向けた研修（年3回）※うち1回は探究フェスタ内
- ・ 探究推進担当者＋主幹教諭が主な対象
 - ・ 探究指導主事による年2回の学校訪問

地域との協働体制構築・運営研修（地域室）

- 学校運営協議会等の協働体制の構築・運営に関する研修
- ・ 年1回研修（オンライン）
 - ・ 各校のコンソ担当者が主な対象

授業改善研修（高校S/教育C）

- ICT活用も含めた授業改善研修（悉皆）
- ・ 教科ごとに実施
 - ・ R5年度は3年悉皆の最終年度

働き方改革挑戦校向け研修（企画課）

- 挑戦校(20校程度※義務含めて)の業務改善に向けた研修
- ・ 年間5回にわたる研修＋個別支援（90分）
 - ※ これとは別に任意の座談会による事例共有もあり

ICT活用リーダー研修（高校S）

- 各校のICT活用リーダー向けの研修（年3回）
- ・ 1人1台端末の活用事例などを共有 ほか

コーディネーター研修（地域室）

- 県内のコーディネーター向けの研修（年2回）
- ・ 各コーディネーターの活動事例などを共有 ほか

魅力化評価研修（地域室）

- 魅力化アンケートの読み解きや活用方法に関する研修（年1回）

グランドデザインPDCA研修

～地域との協働体制（高校魅力化コンソーシアム）を生かしたテーマの推進～

■ 目的

- グランドデザインの実現に向け、重点的取組を設定し、コンソーシアム等の協働体制を活かして解決できる方法を検討する。
- また、重点的取組に向き合うこと（PDCAサイクルを回すこと）を通して、そのテーマにおける“あるべきコンソーシアム”の形を模索すると共に、そのプロセスを通じてコンソーシアムを強固なものとし、自走できるチームへと進化させる。

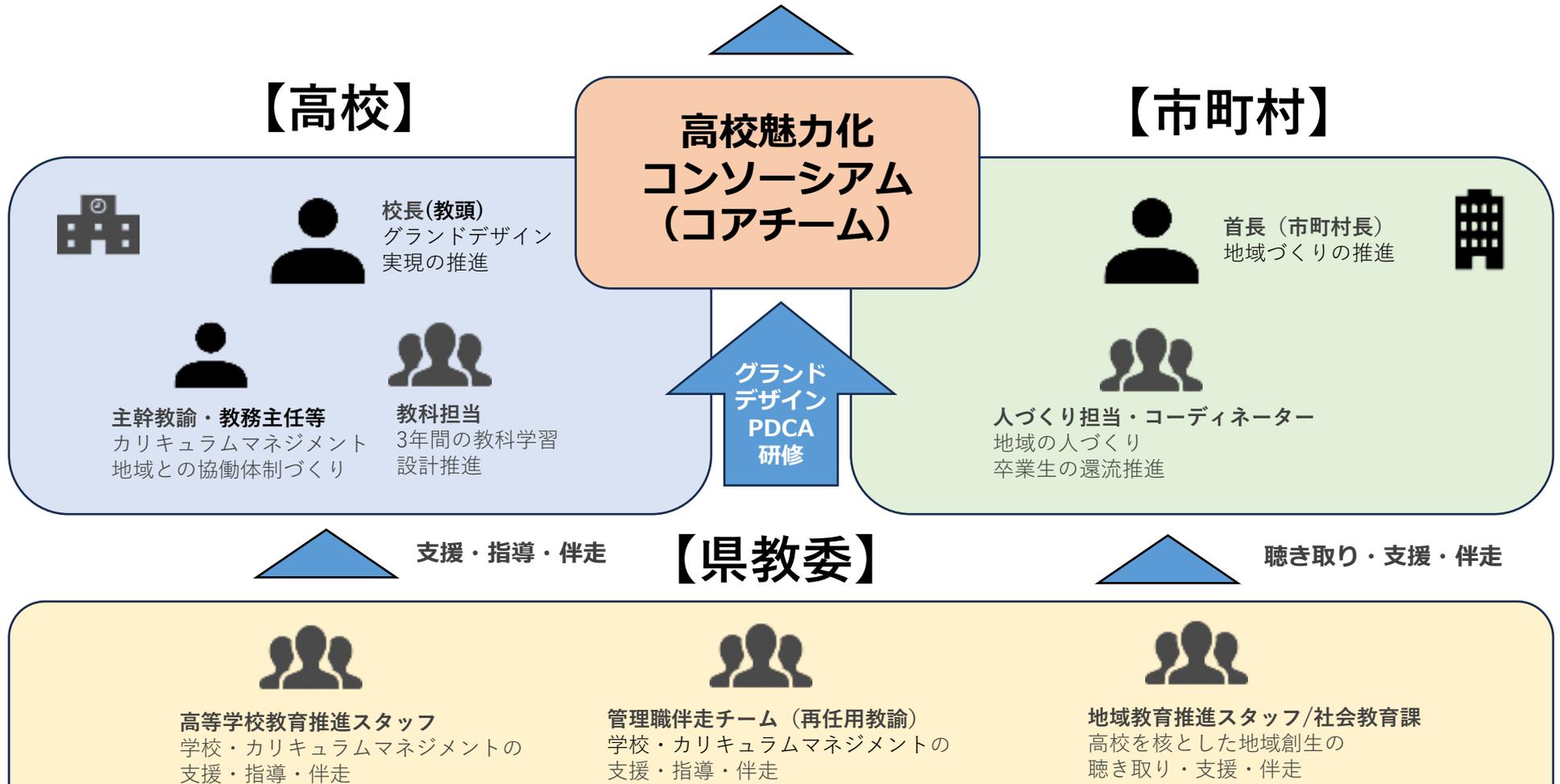
■ 取組内容

取組内容	対象	詳細	実施形態
グランドデザインPDCA研修	各コンソーシアムの 中核メンバー (3人のコアチーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の全コンソーシアムを対象としたPBL型の研修の実施 ※「高校魅力化ルーブリック」を活用し、現状評価と目標設定を行う ※重点的取組を設定し、PDCAサイクルを回す支援を行う 	年3回 (半日・1日・半日) ※1日程のみ対面開催
テーマ推進ミーティング (ミニ研修)	各コンソーシアムの 中核メンバー (1名でも参加可) ※任意参加 ※各回2～3のコン ソーシアムの参加 を想定	<ul style="list-style-type: none"> ・県が重視するテーマや各コンソーシアムのニーズに沿ったテーマに関するミーティング（ミニ研修）の実施 ※テーマは、高大連携、産業界連携、卒業生還流等を想定（詳細、次頁） ※各テーマにおける専門アドバイザーを派遣し、議論を深める ・必要に応じて、各テーマにおけるコンソーシアムの活動のヒアリングを行い、レポートにまとめる（コンソーシアムの実態調査） 	2テーマ×年2回 (1.5～2時間/回) ※全てオンライン開催

■ 年間計画

取組内容	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
グランドデザインPDCA研修	研修① ○オンライン開催 ・PDCAサイクルとは？ ・今年度の進め方の確認 ・重点的取組の設定	※高校魅力化ルーブリックによる自己点検、課題設定	研修② ○対面開催 ・事例共有 ・中間振り返り	研修③ ○オンライン開催 ・事例発表 ・年度振り返り ・次年度目標設定
テーマ推進ミーティング (ミニ研修)		テーマA 1回目	テーマB 1回目	テーマA 2回目
				テーマB 2回目

グランドデザインの実現



高校・市町村に面的伴走支援を行えるように、伴走体制を構築

PBL型研修＋研修の間での伴走支援 (年1～3回程) で
PDCAサイクルを確実に回せることを目指す

**グラウンドデザインを実現させる
“伴走支援”とは？**

“伴走”ということ自体を探究

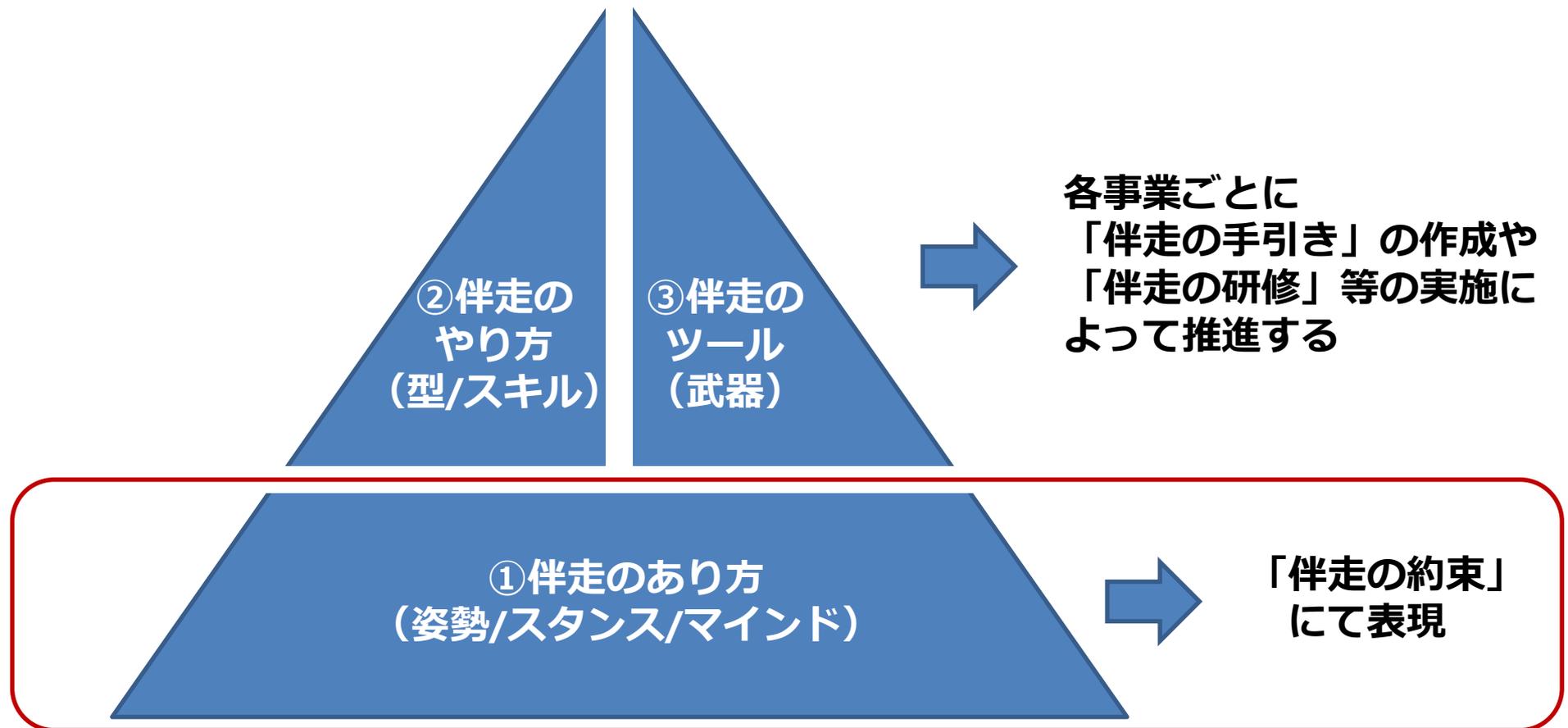


伴走のあり方・やり方の可視化・共有

「伴走の約束」策定プロジェクト

「伴走支援」を進めるために考えるべきポイント

- 「伴走のやり方」の根底に流れる、「伴走のあり方」を教育庁内で揃えていくことが重要。
- すでに様々な場面で学校への伴走支援は行われているため、そこで意識され、大切にされてきた、スタッフ一人ひとり行動指針を「伴走のあり方」＝「約束」として抽出していく。



○ 伴走の約束とは

- ・ 各校が掲げるグランドデザインの実現に向け、
県教育委員会が学校現場を支援する際の「行動指針」

※また、学校現場に訪問する“伴走”だけでなく、
学校現場とのコミュニケーション全般（研修や電話、メール等）も指しています。

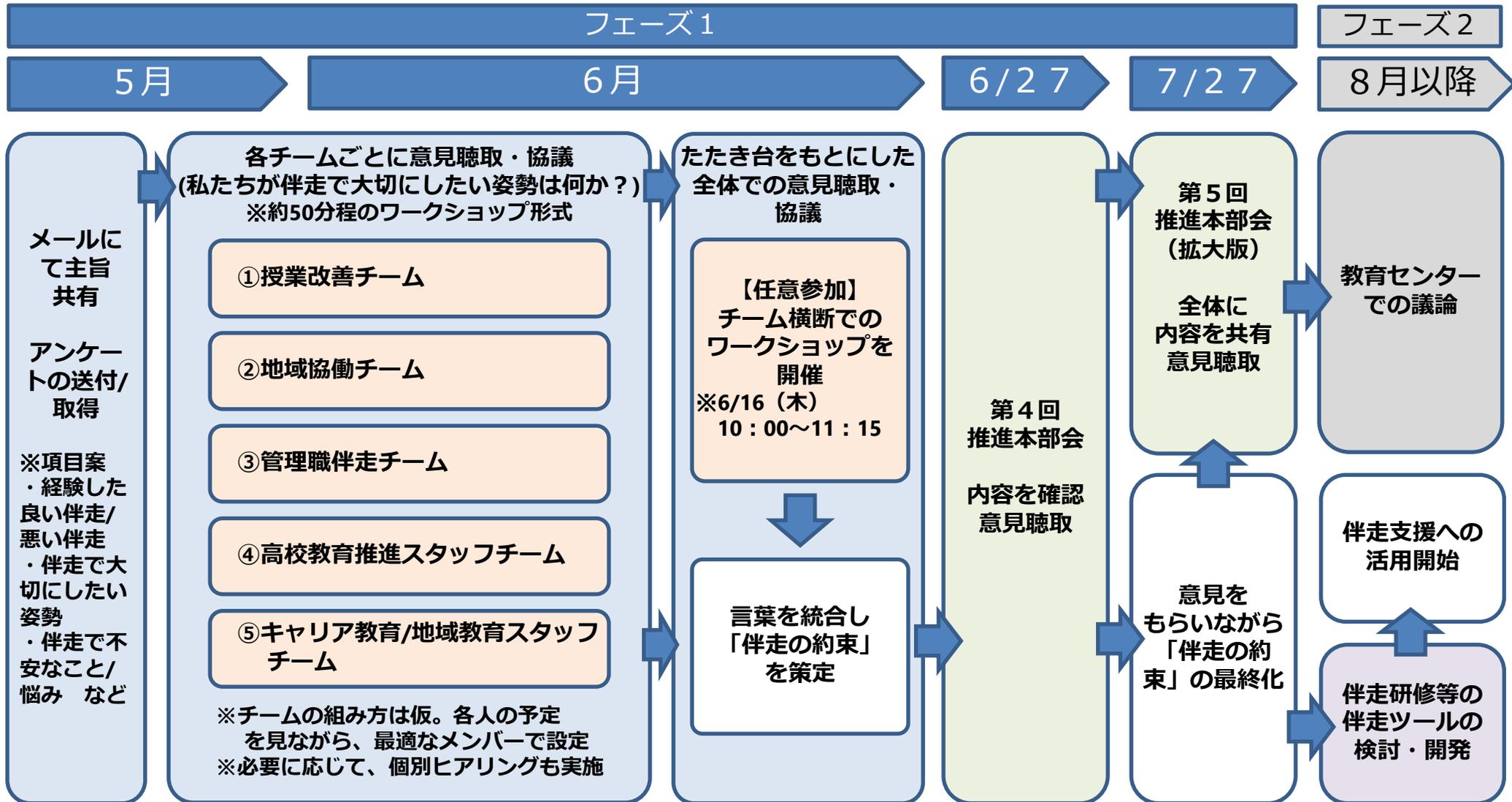
○ 策定の進め方

- ・ 策定プロセスには、教育指導課、教育企画課、教育センターなど、
多様な部署が参画する形で策定する
- ・ 長年、民間企業への伴走支援を行ってきた外部団体と連携・協働し、
ワークショップの設計や意見のとりまとめを行う

(参考) 「伴走の約束」の策定スケジュール

○ 策定スケジュール (22年5月～8月)

- ・ 6, 7月の推進本部会を報告・意見聴取の場として位置づける。
- ・ 約1か月半の中で、事前アンケートを取得後、チーム単位での意見聴取・協議の場を設定する。
「私たちが伴走で大切にしたい姿勢は何か？」を本質的な問いとして定め、言葉を紡ぐ。
- ・ 8月以降は伴走研修等、伴走ツールの検討・開発に着手し、2学期以降の伴走支援に活用していく。
- ・ また、8月以降は、教育センターでの議論も開始。

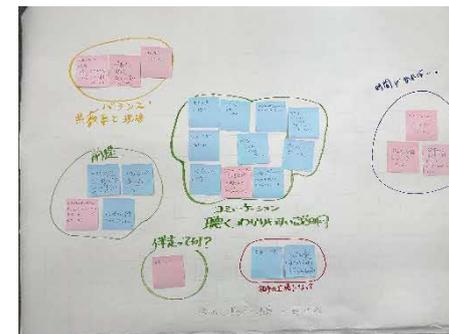
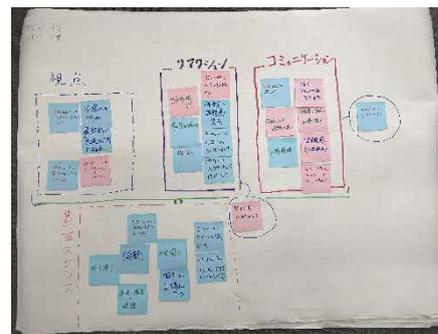
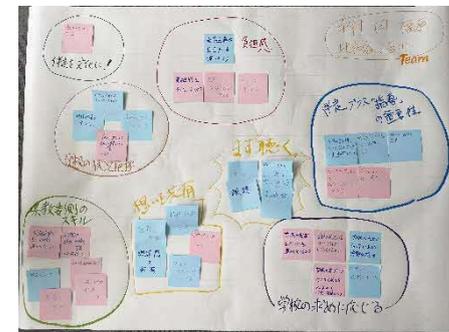
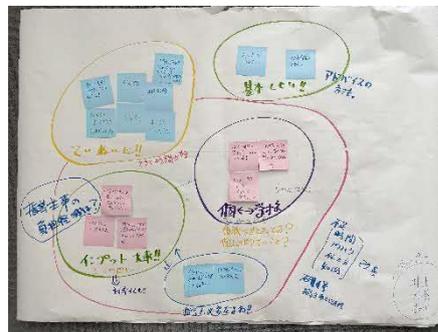


(参考) 「伴走の約束」の策定に向けた個別・全体ワークショップの様子

▼個別ワークショップ (約10人参加×2回実施)



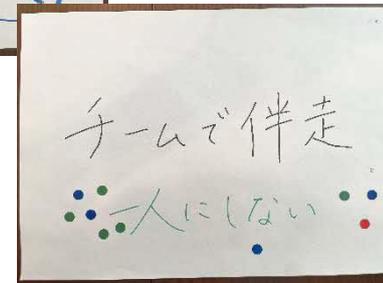
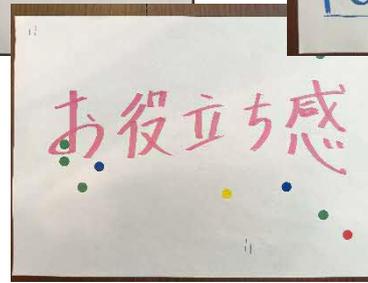
※各グループで議論してまとめた模造紙 (抜粋)



▼全体ワークショップ (18人参加)



※ドット投票をしたキーワードシート (抜粋)





※ワークショップの様子 (動画)

2022.06.16

伴走の約束

全体ワークショップ



「伴走の約束」とは？
職員が高校現場に伴走して
いくにあたっての宣言文であり
拠り所となる行動指針

現場の声に合わせて
改訂されていく
「生きた宣言文」に

1. 事前の目線合わせ



2. 「大切にしたい姿勢」3つ 選出



3. ドット投票と全体協議



▼ワークショップの感想 (抜粋)

- ・ 伴走について、自分の中になかった考え・意見をみなさんから聞くことができた。
いずれも、自分からは想起されなかったが、言われて「ほんと！その通り！」というものばかりだった。
- ・ 伴走という言葉をぼんやりと自分のなかではとらえていましたが、皆さんと情報を共有する中で、イメージが重なる部分と異なる部分があることをあらためて認識しました。
- ・ 皆さんと気持ちの共有ができたことがとてもよかったです。
- ・ 全体ワークショップでは、協議のキーワードは「チーム」であったと思いますが、その内容もさることながら、このような活動自体が「チーム」の雰囲気醸成に効果を上げていたように感じました。
- ・ 不安に思っていることや困っていることはすぐに相談して、チームで業務に当たることの大切さを再認識しました。
- ・ ワークショップでの話し合いはとても意義深いものだと感じていますが、話の内容は一般論も多く、学校現場のリアルな課題感に対して有効に働くかどうか、十分に腹落ちできない部分もありました。設定した課題に対してどのような伴走が考えられるか意見を出し合うといった、いわば「思考実験」的なワークショップをしてみると「伴走の約束」を持っていることの意義がより明確になると同時に、納得感が得られやすいのではないのでしょうか。

伴走の約束

伴走の約束とは、各校が掲げる
グランドデザインの実現に向け、県教育委員会が
学校現場を支援する際の「行動指針」です

ステップ1

“主体的”に 学校現場を知る

学校現場が置かれている状況や生徒の様子、また、目指したい方向性など、学校現場への深い理解と尊重を持ちながら、伴走することを約束します。

ステップ2

“対話的”に 共に考える

意見を押し付けるのではなく、学校現場に寄り添い、関係者の想いや意志に耳を傾け、共に考える姿勢を持ちながら、伴走することを約束します。

ステップ3

“深い学び”に 広い視野でつなげる

新しい視点や切り口の提供、また、具体的な事例共有や提案を行い、常に取組が進化していくことを目指し、伴走することを約束します。

学校現場との約束

【学校現場との“伴走の約束”を果たすための心構え・体制】

自らの専門性を磨く

新しい視点や切り口を提供できるようになるため、私たち自身も日々学び続け、自らの専門性を磨きます。

チームで対応する

学校現場の多種多様な課題を共有し合い、知恵を結集させ、強みを活かし、課題に対してチームで対応します。

私たち自身との約束

令和4年度
グランドデザイン実現のための授業改善・学力向上に係る
教育指導課の学校訪問（22年9月～12月実施）

▼「伴走の約束」の自己チェックシート 平均点（23年1月10日）

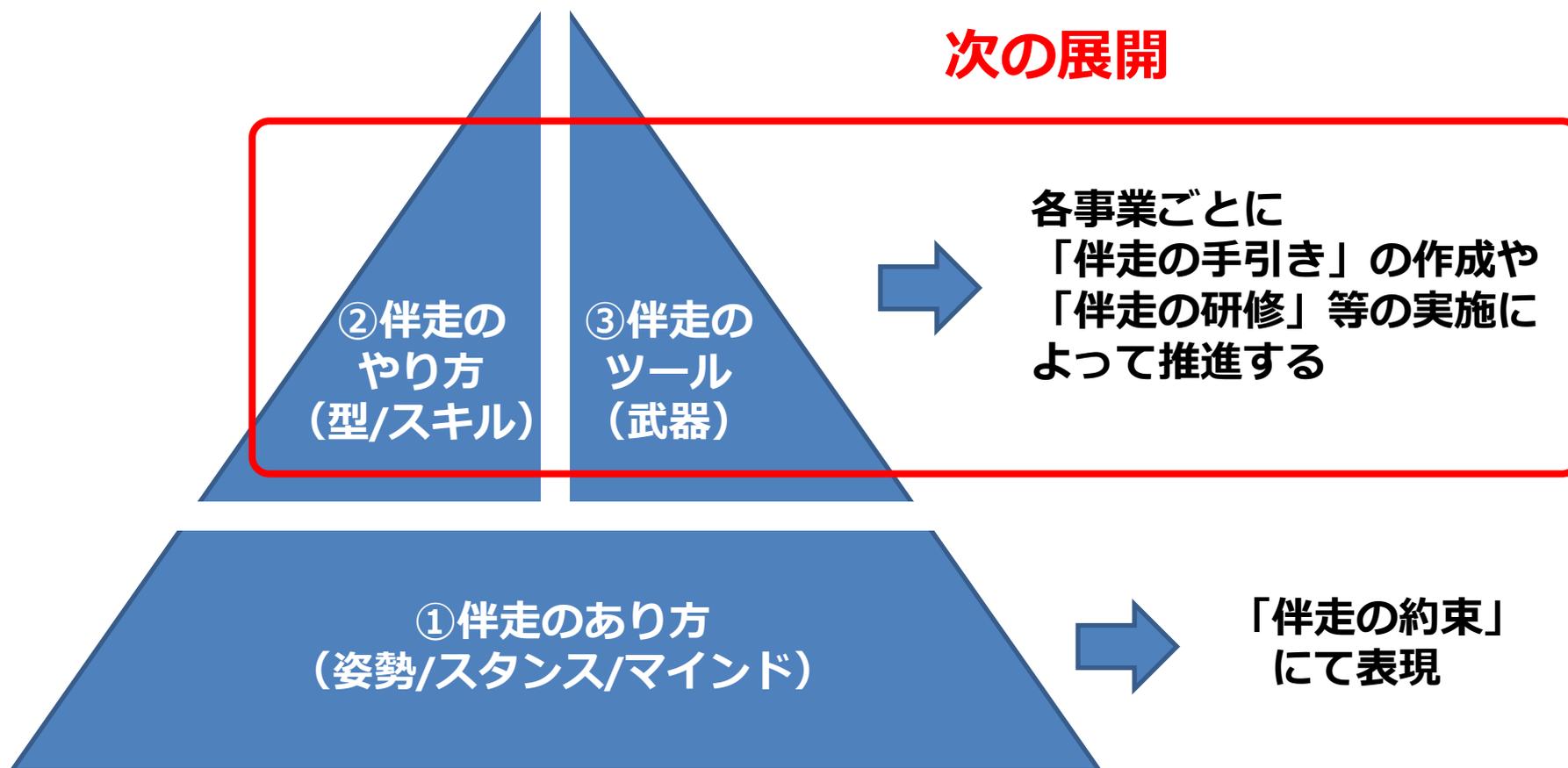
カテゴリ	ステップ	項目	番号	説明	平均	
学校現場との約束	ステップ1	"主体的"に学校現場を知る	1	学校現場が置かれている状況や生徒の様子、目指したい方向性などを知ることができましたか。	3.0769	高
			2	学校現場への深い理解と尊重を持ちながら、関わることができましたか。	3	
	ステップ2	"対話的"に共に考える	3	意見を押し付けるのではなく、学校現場に寄り添うことができましたか。	2.6923	
			4	関係者の想いや意志に耳を傾け、共に考える姿勢を持ちながら、関わることができましたか。	3.0769	高
	ステップ3	"深い学び"に広い視野でつなげる	5	新しい視点や切り口の提供、また、具体的な事例共有や提案を行うことができましたか。	2.5385	低
			6	常に取組が進化していくことを目指し、関わることができましたか。	2.3846	低
私たち自身との約束	自らの専門性を磨く	7	新しい視点や切り口を提供できるようになるため、日々学び続け、自らの専門性を磨くことができましたか。	2.6154		
	チームで対応する	8	学校現場の多種多様な課題を共有し合い、知恵を結集させ、強みを活かし、課題に対してチームで対応することができましたか。	2.5385	低	

【良い点】

- ・ **現場に耳を傾け、共に考える姿勢を持って接する関わり**

【課題点】

- ・ **新しい視点や切り口を提供し、深い学びにつなげる関わり**
- ・ **互いの強みを活かし、チームで対応していく関わり**



1. 「学校伴走のための勉強会」の実施

- ・ 伴走を担うスタッフ向けの勉強会を実施し、学校現場の様々な課題感に対して、多角的な視点での対応・支援ができる素地を整える。
- ・ また、教育庁内において誰が何に詳しいのかを知り、教育庁内で相談ができる体制を整える（教育庁のチームワークを向上させ、学校現場に対してチーム対応ができる体制を整える）。
※従前の指導主事会とも連携

2. 「伴走支援ツール」の開発・充実

- ・ スタッフが現場への伴走をしていくにあたって、活用できるツールを開発し、その内容を充実させていく。
※すでに開発済みのツール：高校魅力化ルーブリック、学校カルテなど

▼「学校伴走のための勉強会」実施

第1回勉強会（キックオフ）

【日 時】4月13日（木）13時30分～15時30分@県庁講堂

【テーマ】県立高校魅力化ビジョンと国の動き・島根県の動きについて

【講 師】教育監、特命官、指導課調整監、企画課調整監

【参加者】33名（指導課、企画課、教育センター、社教課、保体課、特別支援）



【感想抜粋】

- ・国や県の最新の動きがわかり、大変勉強になりました。今後、高校魅力化をさらに進めていくうえで、多様な学校の要望を把握し、チームで対応していくことが大切であると、私も思います。
- ・これまで他課の方と一つの話題について学んだり、協議する場は少なかったように思います。学校に協働、生徒に協同（共同）を求めるなら、やはり私たちも協働するのがよいし、その方が確実によりよい方法を導き出せると思います。
- ・学校現場でも説明を受けていた内容を含んでいたのだと思いますが、改めてお話をうかがい、自分がいかに理解していなかったかということがよくわかりました。また、全体像が少し見えてきた気がします。
- ・具体的な取り組みについて知りたい。例えば今日の勉強会であった「これは矢上高校の例だが…」というような感じです。

第2回勉強会（知識編）

【日 時】5月12日（金）11時～12時@オンライン

【テーマ】普通科改革の最前線 ～魅力化コーディネーターの役割～（グループ自己紹介・国/県の動き・取組事例の共有・質疑応答）

【講 師】隠岐島前高校 教育魅力化コーディネーター

【参加者】13名（指導課、企画課、教育センター、社教課、保体課、特別支援）



【感想抜粋】

- ・現場（隠岐島前）のお話しが聞いて大変よかったですです。
- ・コーディネーターの方の業務がかなり学校経営、教育課程に関わっていることがわかりました。
- ・学校にいたものの立場で見ると、教員の意識を高めることが軌道にのせる必要条件なのかなとも感じました。
- ・教育庁が「伴走」する多くの学校は、それぞれ魅力化に課題を持っていると思います。その課題を共有することも必要と思いました。他校の進捗状況、うまくいっていない学校の課題も、教育庁がチームで伴走する上では共有が必要だと感じます。
- ・参加者間での交流もとても良かったですです。

高校魅力化コンソーシアム充実に向けた項目一覧（高校魅力化ルーブリック）を活用した各コンソーシアムの状況把握と支援の検討

※（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが開発したツールを島根県版として改編・活用

高校魅力化コンソーシアム充実に向けた項目一覧
(高校魅力化コンソーシアムルーブリック)

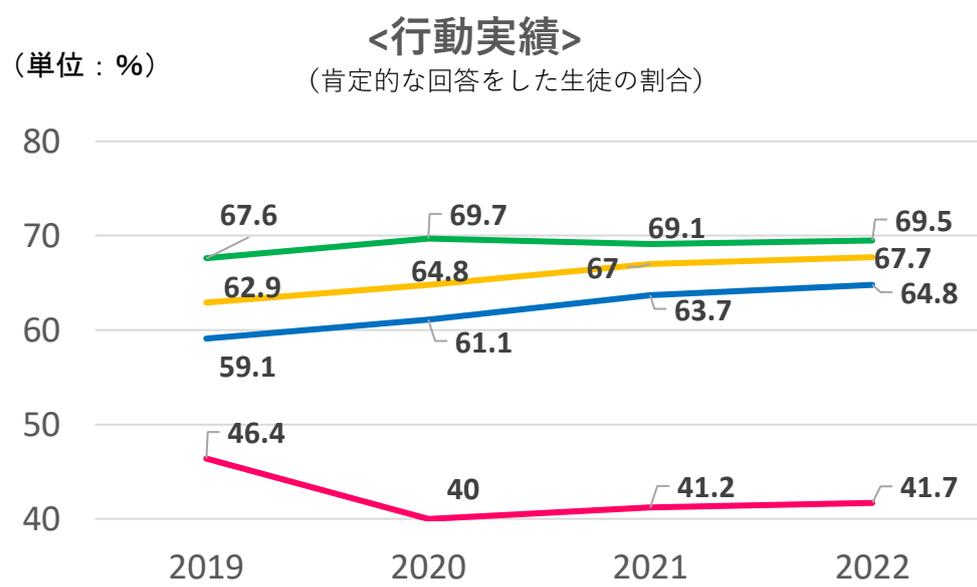
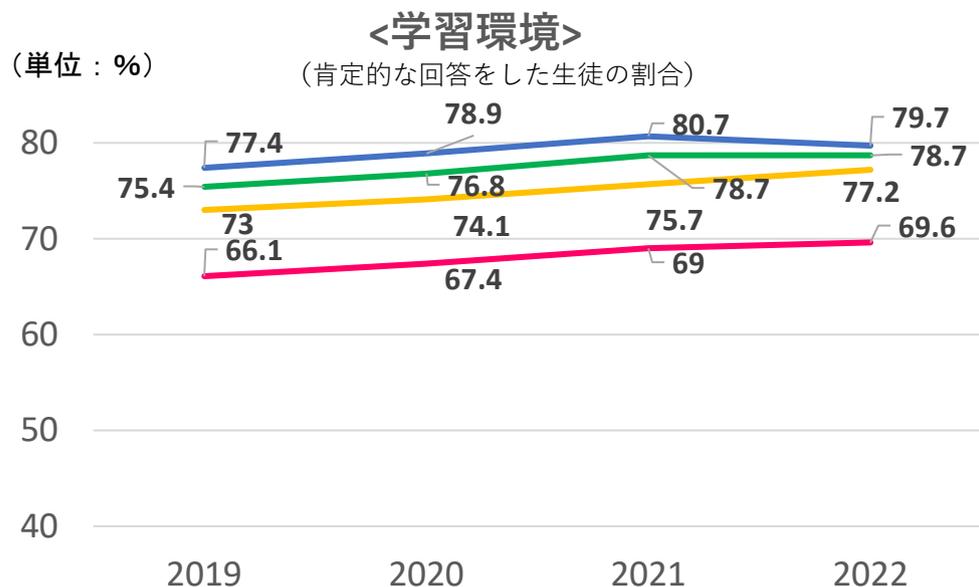
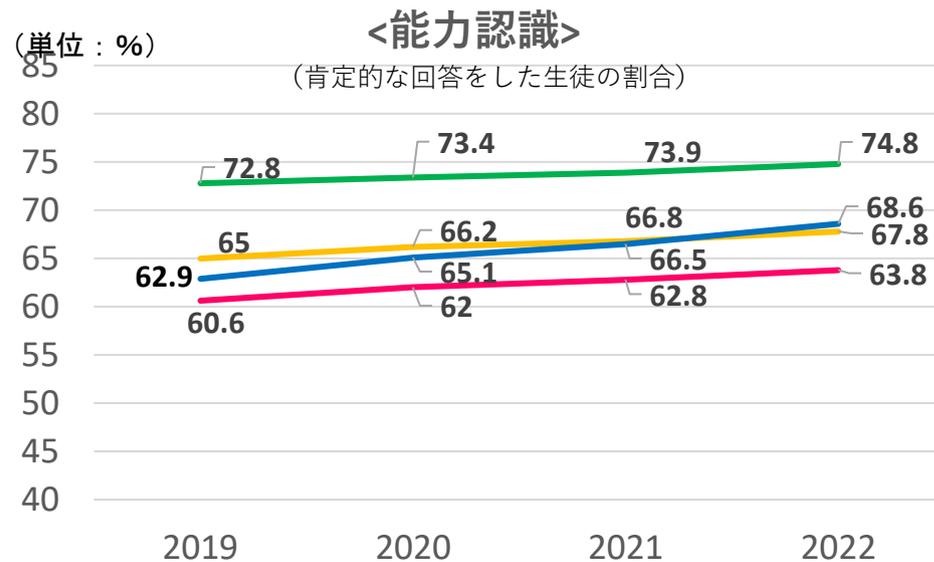
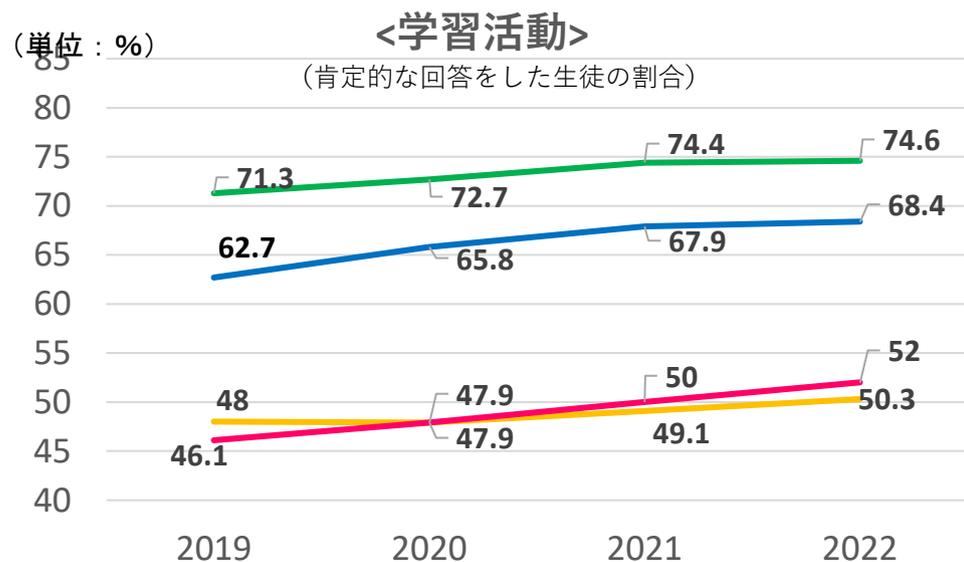
設定項目	カテゴリー	No.	項目	●実施/コンソーシアム人等			●氏名		
				レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	チェック欄 【チェックを記入】	チェック理由
共通項目	①グランドデザイン	1	グランドデザインの策定・見直し	グランドデザインは、教職員をはじめ生徒や学校外の関係者等が参画し、全体で策定・見直しが行われている。	グランドデザインは、学校外の関係者等も参画し、策定・見直しされているが、一部のメンバーのみでの活動となっている。	グランドデザインは学校の管理職や学校内の一部のメンバーのみで、策定・見直しされている。	グランドデザインは策定・見直しされていない。もしくは、今までの学校関係等のまま、特に対話や改善をされていない。		
		2	グランドデザインの共有・浸透	グランドデザインは、一貫性・整合性があり、生徒・教職員をはじめ学校外の関係者等に理解・納得され、日常的に参照・活用されている。	グランドデザインは、一貫性・整合性があり、生徒・教職員をはじめ学校外の関係者等に理解・納得されつつあるが、日常的に参照・活用されていない。	グランドデザインは、一貫性・整合性があるものの、他校と比べてあり、生徒・教職員をはじめ学校外の関係者等に理解・納得ができていない。	グランドデザインは、一貫性・整合性がなく、生徒・教職員をはじめ学校外の関係者等に共有されていない。		
	②協働体制	3	協働体制の構築	学校と関係機関等が、方針・計画・予算等の承認・意志決定を共同で行い、構築されているとともに、事務局等の追認に留まらず、具体的な実質的な対話も行われている。	学校と関係機関等が、方針・計画・予算等の承認・意志決定を行う体制は構築されているが、事務局等の追認に留まり、具体的な実質的な対話も行われていない。	学校と関係機関等が、協議・交渉や意思決定を行う会はあるが、方針・計画・予算等の承認・意志決定が行われていない。	学校と関係機関等が、対話や協議・交渉を行う会や体制がない。		
		4	推進体制の整備	グランドデザインの実現に向け、組織的に動ける推進体制が整備されている。	グランドデザインの実現に向け、組織的に動くチームや組織はあるが、全体で組織的・一体的に動ける推進体制にはなっていない。	グランドデザインの実現に向け、役員や一部のメンバーが個人的に動いている。	グランドデザインの実現に向け、組織的に動く推進体制がない。		
		5	PDCAサイクルの確立	具体的な目標・指標が教職員をはじめ学校外の関係者等に共有され、各種データ等のエビデンスに基づき、全体で対話的に評価・改善が行われている。	具体的な目標・指標が、教職員をはじめ学校外の関係者等に共有され、各種データ等のエビデンスに基づき対話的に評価・改善を行っているが、一部のメンバーのみで	具体的な目標・指標が設定され、各種データによる確認はされているが、対話的な振り返りや改善は行われていない。もしくは、各種データ等によるエビデンスに基づ	具体的な目標・指標は設定されておらず、対話を通じた振り返りや評価も行われていない。		
	③連携の強化	6	社会に関わった教育実践の推進（教育的価値）	高校が社会に関われ、地域との連携協働を通して、生徒の学びが深められ、地域社会に貢献している。	高校が社会に関われ、地域との連携協働を通して、生徒の学びが深められ、地域社会に貢献している。	高校が社会に関われ、地域との連携協働を通して、生徒の学びが深められ、地域社会に貢献している。	高校が社会に関われ、地域との連携協働を通して、生徒の学びが深められ、地域社会に貢献している。		
		7	高校を核とした異業種連携（地域創生が軸）	高校を核として、地域企業や団体と連携し、地域創生を推進している。	高校を核として、地域企業や団体と連携し、地域創生を推進している。	高校を核として、地域企業や団体と連携し、地域創生を推進している。	高校を核として、地域企業や団体と連携し、地域創生を推進している。		
各コンソーシアム 任意設定項目	④校内体制	8	事務の構築・分担						
		9	コーディネーター人材の確保						
	⑤カリキュラム	10	地域連携カリキュラムの開発						
		11	関係機関等との連携（地域や大学、専門学校、小中学校等）						
	⑥広域	12	早稲生ネットワークの構築						
		13	広域・生徒等集（近隣中学校）						
14	広域・生徒等集（全国）								
⑦委員会	15	委員会等の確保							
各コンソーシアム 自由設定項目	※自由に設定してください	16	※自由に設定してください						

設定項目	カテゴリー	No.	項目	レベル4
共通項目	①グランドデザイン	1	グランドデザインの策定・見直し	グランドデザインは、教職員をはじめ生徒や学校外の関係者等が参画し、全体で策定・見直しが行われている。
		2	グランドデザインの共有・浸透	グランドデザインは、一貫性・整合性があり、生徒・教職員をはじめ学校外の関係者等に理解・納得され、日常的に参照・活用されている。
	②協働体制	3	協働体制の構築	学校と関係機関等が、方針・計画・予算等の承認・意志決定を共同で行い、構築されているとともに、事務局等の追認に留まらず、具体的な実質的な対話も行われている。
		4	推進体制の整備	グランドデザインの実現に向け、全体で組織的・一体的に動ける推進体制が整備されている。
		5	PDCAサイクルの確立	具体的な目標・指標が教職員をはじめ学校外の関係者等に共有され、各種データ等のエビデンスに基づき、全体で対話的に評価・改善が行われている。
				高校が社会に関われ、地域との連携協働を通して、生徒の学びが深められ、地域社会に貢献している。

(参考) 高校魅力化評価システムによる現状把握と課題の見極め：全体

<これまでの取組・成果>

- 生徒の資質能力や行動実績（主体性、協働性、探究性、社会性）にも変化が見られる



(参考) 高校魅力化評価システムによる現状把握と課題の見極め：項目抜粋

<これまでの取組・成果> (肯定的な回答をした生徒の割合)

○ 詳細項目 (主体性に関する項目)

項目	R元	R2	R3	R4	R4-R元
現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	65.1%	69.5%	70.7%	72.1%	+ 7.0 P
挑戦する人に対して応援する雰囲気がある	88.6%	89.3%	90.5%	90.8%	+ 2.2 P
授業で分からないことを自分から質問したり、分かる人に聞いた	74.1%	76.4%	78.1%	78.5%	+ 4.4 P

○ 詳細項目 (協働性に関する項目)

項目	R元	R2	R3	R4	R4-R元
活動・学習内容について生徒同士で話し合う	83.7%	86.0%	88.5%	88.5%	+ 4.8 P
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.5%	91.8%	92.9%	93.0%	+ 3.5 P

○ 詳細項目 (探究性に関する項目)

項目	R元	R2	R3	R4	R4-R元
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	40.5%	42.2%	43.5%	45.4%	+ 4.9 P
授業で「なぜそうなるのか」疑問を持ち考えたり調べたりした	60.2%	63.0%	65.5%	66.5%	+ 6.3 P

○ 詳細項目 (社会性に関する項目)

項目	R元	R2	R3	R4	R4-R元
興味を持ったことに対し橋渡しをしてくれる大人がいる	69.2%	72.8%	75.7%	76.0%	+ 6.8 P
自分の将来について明るい希望を持っている	70.9%	71.3%	72.7%	73.1%	+ 2.2 P
地域文化や暮らしを自らの手で未来に伝えたい	53.7%	56.2%	57.0%	57.8%	+ 4.1 P
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたい	69.9%	69.4%	70.9%	72.1%	+ 2.2 P
将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う	52.5%	52.8%	53.2%	53.8%	+ 1.3 P

1. データを活用したPDCAサイクル（評価・改善等）の推進

＜都道府県・市町村＞ 学校評価の共通基盤の構築など、学校のPDCAサイクル及び教育政策に関するEBPMを推進するための環境整備を進めるとともに、データの分析・提供及び客観的根拠に基づく評価・改善を行うこと

＜文部科学省＞ データを活用したPDCAサイクルに係る情報収集及び情報提供を行うとともに、積極的な取組を促していくこと

2. 学校と関係機関等の連携・協働に向けたコーディネート機能の充実

＜都道府県・市町村＞ 学校と地域、自治体、産業界、大学といった関係機関等との連携・協働や人材とのマッチング等が図られるよう、教育委員会がコーディネート機能を発揮し、連携支援について必要な取組を行うこと

＜文部科学省＞ コーディネート機能の充実に取り組む教育委員会に対して、事例創出・横展開も含めて、積極的に支援を行うこと

3. 外部機関・人材の活用による学校支援の推進

＜都道府県・市町村＞ 学校の運営支援に向けて、専門性を有する外部機関・団体との協働や人材の活用に取り組んでいくこと

＜文部科学省＞ 外部機関との連携・協働や外部人材の登用・活用等に係る事例を収集し、その効果、留意点等も含めて広く周知すること